

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは

「SDGs (エスディーゼズ)」とは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能(人間が地球に住み続けることができる)でよりよい世界を目指す、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓った国際社会共通の目標です。

国際連合とは

国際連合(国連)は第二次世界大戦直後の1945年に目的達成のために協力を誓った独立国家が集まり設立された、国際平和と安全の維持(安全保障)、経済・社会・文化などに関する国際協力の実現をおもな目的とする普遍的な平和機構です。※加盟国数は193国(世界の国の数は196)



国際連合(国連)の旗 / 公式印章

オリーブの木の枝を交差させた輪に内接された、北極を中心とした正距方位図法を表す世界地図。

オリーブの枝は平和の象徴であり、世界地図は世界の全ての人と国を表している。

ESD～今日よりいいアースへの学び～とは

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらす、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。

ESDで育みたい力

○持続可能な開発に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）○体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）○代替案の思考力（批判力）○データや情報の分析能力○コミュニケーション能力○リーダーシップの向上



ESDとSDGsの関係性

ESDは、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で我が国が提唱した考え方であり、ユネスコを主導機関として国際的に取り組まれてきました。2015年の国連サミットにおいて、「持続可能な開発目標（SDGs）が採択されましたが、ESDは、このうち、目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲット4.7に位置付けられました。一方で、ESDは、ターゲットの1つとして位置付けられているだけでなく、SDGsの17全ての目標の実現に寄与するものであることが第74回国連総会において確認されています。持続可能な社会の創り手を育成するESDは、持続可能な開発目標を達成するために不可欠である質の高い教育の実現に貢献するものとされています。



JSTS-D

Japan Sustainable Tourism Standard for Destination

コロナ以前問題となっていたオーバーツーリズムや新型コロナウイルス感染症の流行への対策を取るべく、自治体やDMOなどの地域が持続可能な観光地マネジメントを行えるよう、国際基準に準拠した観光指標を提示したものを。

日本版持続可能な観光ガイドラインJSTS—D

小豆島町が「世界の持続可能な観光地TOP100選」に2年連続で選出されました。



「世界の持続可能な観光地TOP100選（以下、TOP100選）」とは、国際認証の公式認証機関であるオランダの非営利団体グリーン・デスティネーションズが、持続可能な観光の国際基準を取り入れ、より良い地域づくりに努力している地域を毎年選出しているものです。エントリーには、持続可能な観光に関する100項目にわたる国際基準のうち、景観保全や文化財の保護、エネルギー消費量の削減など、特に重要な15項目の指標をクリアしていること、さらに、地域の優れた取組事例「グッド・プラクティス・ストーリー」の存在が必要になります。

世界に認められた小豆島町の「グッド・プラクティス・ストーリー」

●中山千枚田の保全活動

「日本の棚田百選」にも選ばれている中山千枚田。農村歌舞伎など地域文化の基軸となっているこの美しい棚田は、担い手不足により、荒廃田が増加し、景観保全や伝統文化継承の危機に直面していました。

中山千枚田の将来を危惧した地域住民は、行政と連携し、「中山棚田協議会」を発足させ、棚田の現状調査や国内外の大学生による農業体験プログラムの受入など、関係人口を増やしながら棚田を中心とした持続可能な地域社会を目指し保全活動を行ってきました。協議会や地域住民の努力の結果、現在でも一定の景観と棚田の機能が保たれています。

近年では、映画のロケ地となったことをきっかけに伝統行事「虫送り」の復活。瀬戸内国際芸術祭により、国内外から多くの観光客が訪れるようになり活気に溢れています。また、観光客が耕作地等に入らないよう案内看板を設置するなど、そこに暮らす人々の生活と観光の間にお互いを思いやる一定の距離が芽生え、観光の賑わいを維持しながら、地域の景観や文化を守っています。住民の中山千枚田を思う気持ちが地域と行政を団結させ、そこに観光という外からの視線が加わることで中山千枚田の希少性や価値が改めて見出されました。

●郷土愛に守られた寒霞渓

小豆島が世界に誇る景勝地であり、人々を魅了し続ける名勝寒霞渓は、今よりはるか昔から先人たちの努力によって守られてきたことをご存知でしょうか。

その昔、寒霞渓の景観に注目した外国人によって土地が買収されそうになった際、乱開発を防ぐため、地元で醤油醸造業を営んでいた長西英三郎氏は、「神懸山保勝会」に巨額の寄付を行い、寒霞渓一帯の土地の取得に協力しました。その結果、土地の管理が一元化され、「日本三大渓谷美」と称されるまでの環境整備が進んでいきました。まさに、現在におけるナショナルトラストの先駆けとも言える活動が100年以上前の小豆島で行われていたのです。

今日では、瀬戸内海国立公園として、法律により景観や生態系が保護されていることはもちろんですが、先覚者たちの郷土愛を受け継ぎ、様々な地元団体や有志の方々が寒霞渓の景観保全活動や魅力の発信に取り組んでいます。

寒霞渓は、1,300万の年月が生み出した「自然の美」の上に人々の郷土愛による保全活動が加わり創り上げられた、世界に誇る小豆島の宝です。先人たちが過去から私たちへ残してくれたこの宝物を、未来への最良の贈り物として繋いでいく義務が私たちにはあります。

二十四の瞳映画村

持続可能な社会の実現のために『小豆島』で『私たち』が出来ること



二十四の瞳映画村では、『二十四の瞳』を通じ、子供たちが学びの場として体験する事が出来ます。

小豆島出身の作家、壺井栄は、小説「二十四の瞳」の中で、「教師と生徒の心の触れ合い」をテーマとして、教育の原点を描いている作品でもあり、また悲惨な戦争に押し潰されながらも、人生を懸命に生き抜こうとしている姿には感動せずにはられません。教師と生徒たちの心の触れ合いを描いただけではなく、生徒間の心の絆をも見事に謳い上げた作品です。教育、貧困、平和と公正、資源の枯渇等、このままでは人類が安定してこの世界で暮らし続ける事ができなくなってしまうと言われている課題に、持続可能な世界を築くために自分はどうのように目標達成に貢献できるかを考えてみましょう。

関連の高いSDGsテーマ



海の豊かさを 守ろう

海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

関連の高いESDテーマ 文部科学省 学習指導要綱 におけるESD関連記述

【小学校生活】具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

【中学生社会地理的分野】地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

二十四の瞳映画村での取り組み

人々の援助や支援、種々な環境の維持・復旧、また社会的環境の諸側面 についても学ぶ、海洋漂流ゴミのボランティア清掃を実施しています。



二十四の瞳映画村はSDGsに取り組んでいます。

関連の高いSDGsテーマ



平和と公正を すべての人に

持続可能な開発に向けて平和と包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

関連の高いESDテーマ 文部科学省 学習指導要綱 におけるESD関連記述

【小学校社会】社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

【中学校社会公民的分野】持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる

【高校公民倫理】現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。

二十四の瞳映画村での取り組み

『二十四の瞳』の作者である、壺井栄が願う「平和な世界」を、作品を通じて児童に伝え、国民として平和な世界を築こうとする 意識を高めてもらう平和講話を実施しています。

二十四の瞳映画村 体験 所要時間：約15分（無料）

+ 観光・お買い物（30分）

① 平和講話（壺井栄文学館館長） ※小・中学校限定



趣旨

壺井栄が願う「平和な世界」を、作品を通じて児童に伝え、国民として平和な世界を築こうとする意識を高めてもらう。

内容

事前に学校側と相談し内容を決定します。

二十四の瞳映画村 体験 所要時間：15分～20分（無料）

+ 観光・お買い物（30分）

② 二十四の瞳紙芝居（小豆島観光ボランティアガイドクラブ）



内容

壺井栄が願う「平和な世界」を、作品を通じ小豆島の文化や自然などの魅力を知っていただくため、地元の観光ボランティアガイドクラブがおもてなしの心で『二十四の瞳』の紙芝居を行っております。

二十四の瞳映画村 体験 所要時間：45分程度（無料）

+ 観光・お買い物（30分～60分）

③ 汐江海岸清掃【SDGs海の豊かさを守ろう】



内容

ボランティア清掃を通じ、人々の援助や支援、種々な環境の維持・復旧、もしくは社会的環境の諸側面について学ぶ事ができます。海洋は私たちにとってかけがえのない環境であり、豊富な資源を得られる場でもあります。その海洋にごみが漂流し、この環境を汚染しつつあります。ごみは私たちが生活する中で発生するものであり、自然の中では分解されないものばかりなので、環境だけでなく、生態系にも大きな影響を与えています。現在の環境を改善しつつ、海洋や海洋資源を保全し、持続可能な形で利用できる世界を目指す活動です。SDGs「海・陸のゆたかさ」清掃道具の用意・ゴミの処分は二十四の瞳映画村でします。

●SDGsを絡めた二十四の瞳についての講和も可能です。
（約30分程度）



施設入場料

※二十四の瞳映画村は割引申請後の料金となります。
随行の教職員は無料となります。（R4年4月1日～税込み）

施設	中学生・高校生	小学生
二十四の瞳映画村	720円	360円
岬の分教場	350円	180円
二十四の瞳映画村 +岬の分教場	1,000円	500円

※体験①～③いずれも事前予約が必要となります。
（料金-無料）映画村入場が条件となります。

※体験④は岬の分教場にてご覧戴けます。（予約不要）

※都合によりお受け出来ない場合もございます。

※上記料金は修学旅行・教育旅行として特別割引申請書をご提出頂いた場合の料金です。